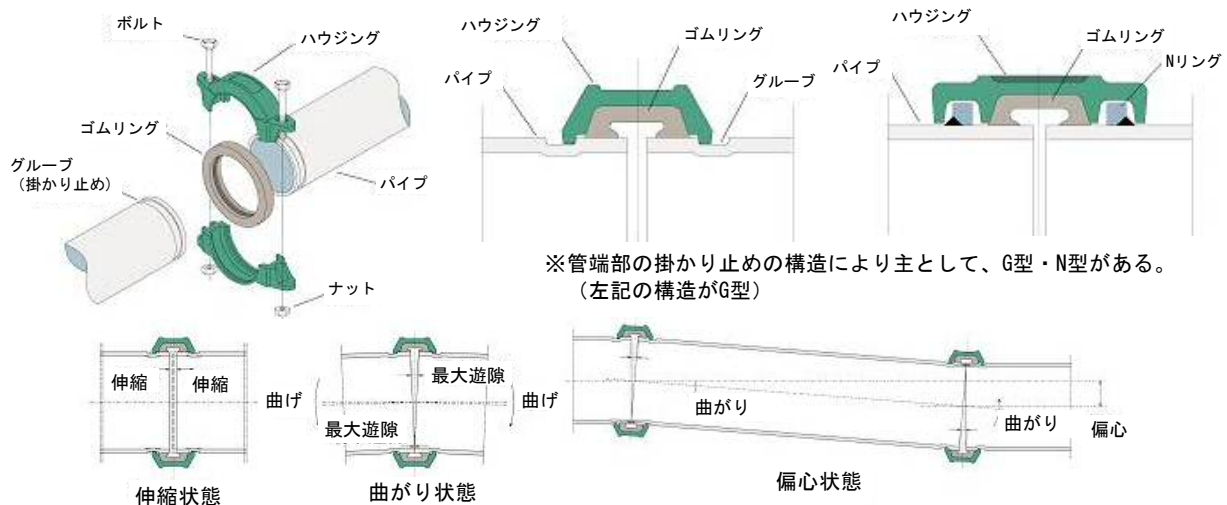


1. 目的・概要

ハウジング継手は1917年(大正6年)英国に於いて考案され、フランジ・ネジ継手に比べてその構造の簡単さにもかかわらず、優れた特徴と、信頼性を有している。その応用範囲は広く、現在世界各国に於いて汎用パイプ継手として、幅広く用いられているヴィクトリックジョイントを紹介する。

2. 構造及び特徴

接合する管の両端にセルフシールのリップ形ゴムリングをはめ、その上からハウジングを被せボルトナットを締め付け管内の流体を密封すると共に、離脱防止機構を有した継手となっている。



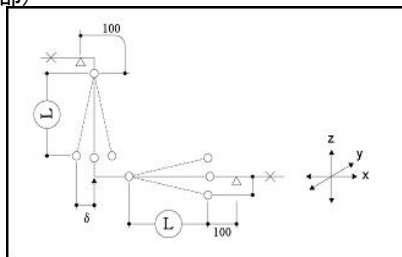
※管端部の掛かり止めの構造により主として、G型・N型がある。(左記の構造がG型)

※継手の型式により上記性能は異なる。

3. 構造物変位吸収例

(1) 地震時の変位を吸収する方法(構造物EXP部)

ハウジング継手1ヶでは大きな伸縮を吸収する事ができないので、建物エキスパンション部等に発生するX、Y、Zの変位を吸収する為にL字型に4ヶ使用する。



N型 継手管の長さL

管径(A) \ 変位量(mm)	±50	±100	±150	±200
20	250	450	700	950
25	250	550	800	1,100
32	350	650	1,000	1,350
40	350	700	1,100	1,500
50	450	850	1,300	1,800
65	550	1,050	1,650	2,250
80	600	1,250	1,900	2,600
100	600	1,200	1,800	2,500
125	700	1,450	2,300	3,000
150	850	1,650	2,600	3,550
200	1,100	2,200	3,350	4,600
250	1,350	2,700	4,150	5,650
300	1,550	3,200	4,900	6,700

G型の場合には寸法が若干異なるので問い合わせること。

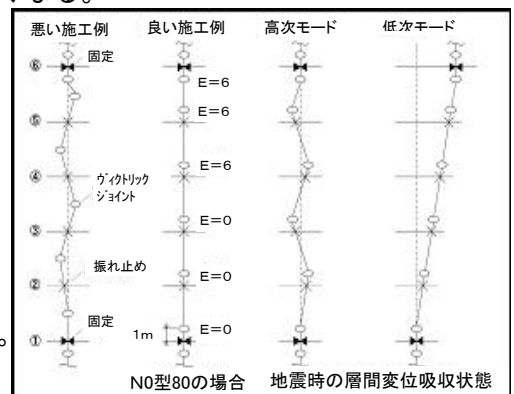
(2) 立配管(層間変位吸収)

※地震時の短期許容撓角=許容撓角×1.5倍

温度伸縮、層間変位共に吸収する場合の施工法

- ①各フロアに1ヶ、ハウジング継手を使用する。床から約1mの位置とする。ジョイントの位置が中間になると配管が蛇行しやすくなる。
- ②各フロアは振れ止めとする。
- ③固定点は最下部と最上部とする。中間部の固定は任意でよいが5F~7F毎に固定する事例が多い。
- ④固定点の下にはハウジング継手を1ヶ追加して使用する。
- ⑤伸縮を吸収する為に固定点間で使用する。

ハウジング継手の数(n)×1ヶの許容クリアランス(E)の1/2をパイプをチェーンブロックなどで引き上げてから固定する。又、層間変位のみ吸収する場合も同様の施工法を行う。

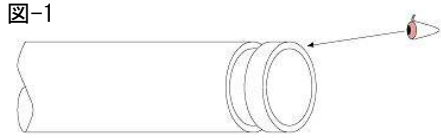


資 料

4. 施工要領

代表的な型式のG型（グルーピング形式）での説明。（各型式の詳細は、カタログを参照する。）

(1) 管端部のチェック



- ・管端部にキズ、バリが無いことを確認。（図-1）
- ・管端部は錆止め塗装を行う。但しステンレス管は除く。
塗料：ヘルメシール30V

注 意

ジンクリッチ・ローバルなど粒子が粗い塗料は塗らないでください。通水性があり漏水の原因となります。

(2) 潤滑剤の塗布

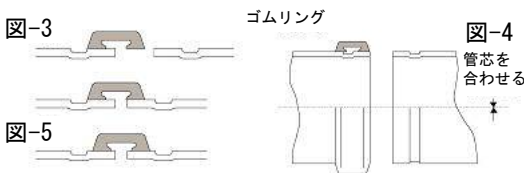


- ・管端部及びゴムリング・ハウジングの内面に潤滑剤を塗布する。（図-2）
- 潤滑剤：滑らかスプレー

注 意

潤滑剤を使用しないと、ゴム噛みなど漏水の原因となります。ただし鉱物油系の潤滑剤は使用しないでください。

(3) ゴムリングの取り付け

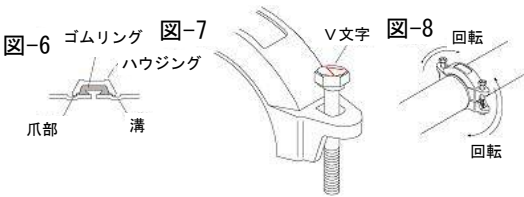


- ・ゴムリングを片側の接続管に取り付ける。（図-3）
- ・接続管同士の管芯を合わせる。（図-4）
- ・接続管の中央にゴムリングを移動する。（図-5）

注 意

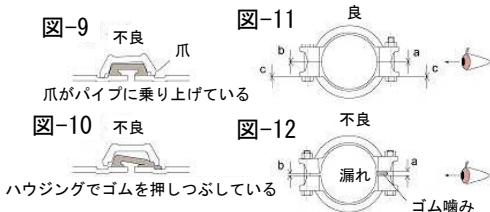
パイプの芯がずれた状態で無理に取り付けると取付不良、漏水の原因となります。

(4) ハウジングの取り付け



- ・ゴムリングの上からハウジングを被せる。（図-6）
- ・ボルトは根角部をハウジングのボルト穴に合わせて挿入する。このときボルト頭部のV字マークが図の位置にあることを確認する。（図-7）
- ・ハウジングの爪部がパイプの溝に正しく入ったらボルトナットを交互に片締めのないよう締め付ける。このとき、両側のボルトナットを少し締めた状態で2、3度回転を加える。（図-8）

(5) 施工の確認



- ・ハウジングの爪部がパイプの溝部に正しく入りa、b、cの隙間が”0”（メタルタッチ）になっていることを確認する。（図-9～12）

(6) 保管

- ・直射日光が当たる場所に長期間放置しないようにする。屋内に保管するか、屋外の場合はシートなどをかける。

5. 問い合わせ先 日本ヴィクトリック株式会社

営業所	電話番号	担当地区
本社	03-5114-8531	東北地区・関東・甲信越
大阪支社	06-6341-3556	関西地区
名古屋支社	052-541-1331	東海地区
札幌支社	011-241-0021	北海道地区
福岡支社	092-431-8208	九州地区
ホームページアドレス		http://www.victaulic.co.jp